

令和元年度 第1回湖西市水道事業経営方針検討会 議事要旨

1. 日 時：令和元年7月2日（火）15：30～16：40

2. 場 所：健康福祉センター（おぼと） 3階 小会議室

3. 出席者

委員)

愛知大学地域政策学部 教授： 菊地 裕幸 氏

豊橋技術科学大学大学院工学研究科建築・都市システム学系 教授： 井上 隆信 氏

公益社団法人日本水道協会調査部 主任調査役： 山本 晃嗣 氏

一般社団法人地方公会計研究センター 理事： 玉澤 一雄 氏

税理士法人ヤマダ会計 公認会計士： 新村 弥加 氏

事務局)

湖西市環境部水道課

株式会社東京設計事務所

4. 概 要

1) 市長挨拶

2) 委員委嘱式

3) 委員紹介

4) 会長選出

委員互選により菊池委員が会長に選任された。

5) 議事要旨

事務局から配布資料についての説明が行われた後、検討項目及び検討方針（案）等に対する意見交換を行った。主な内容は下記のとおりである。次回以降、委員から頂いた意見を踏まえ、検討を進めていくこととなった。最後に、事務局から次回開催について10月を予定していることを連絡し、閉会した。

① 資料に対する質疑応答

委員 用途に工場用とあるが、工業用水もあると思うが、(大規模事業所などの) 工場用は工場職員の生活用という風に考えてよろしいか。

事務局 その認識で相違ない。

委員 職員がかなり少ないという印象を持った。外部委託しているのか。

事務局 メーター検針業務については委託しているが、維持管理点検や料金徴収業務などは職員が行っている。

委員 工場での地下水揚水量は市では把握しているのか。

事務局 環境課で把握している。

委員 会計面について、現時点での老朽化対策は何か実施しているのか。

事務局 2年前にアセットマネジメントを作成した。この時の更新需要は、当時の基準や条件で整理しているので、今回の検討において更新順位等について新たな考え等を盛り込んだうえで見直していきたい。

委員 県との連携、静岡県からの動きというのはなにかないのか。

事務局 アンケートというものはあるが、具体的な広域化へのヒアリングなどはまだない。西部5市町の研究会の場はある。

委員 類似団体との比較については総務省の類似団体区分との比較になるのか。

事務局 具体的なところはこれからだが、日本水道協会のデータなどもあるのでそういったところからも考慮する。

委員 経営比較分析について、財政状況の悪い団体も含んだ平均と比較してしまうと、悪い状態でも問題ないと判断できてしまうので、望ましい値を決めて比較するのがよいのでは。

事務局 全国的に水道事業は悪い状態のものも多く、ご指摘の通り、今後、比較する値は検討していく。

委員 県では、行政経営研究会で(広域化等を)検討していると思われるが、具体的な動きはあるのか。

事務局 ヒアリングなどの動きはまだない。

② 検討項目及び検討方針（案）等に対する意見

- 深井戸について 50 年先も見据えて水量・水質とも問題はないという根拠について、市としても整理できた方がリスク管理となるので、検討してほしい。また、管路の耐震化は配水支管を優先的に進めても、基幹管路が被災すると配水区域全体への配水が停止するので、重要度等を設定して効果的に更新を進めていくことがよい。
- 先月 27 日に、広域連携の推進などの法改正に伴う省令の暫定版が公表されている。これら最新の情報も考慮して検討することが望ましい。なお、法改正では、県に広域連携の推進役を担っていただきたいというのもあるので、県の動きなども教えていただきたい。法改正において、住民の意識も高まっている時期なので、様々な関係者、市民の方々とも情報共有しながら進めてもらいたい。
- 国のほうからも県主導で広域化を推進するようにとのことなので、もし県の動きがあれば検討会の場で情報をいただきたい。
- 今後の事業環境が厳しくなっていく中で官民連携、広域化という考えが出てきており、他の地域や国の動向など委員の皆様からも適宜情報を提供していただきたい。これからは人口減少、コンパクトシティなど長期的な視点から今後水道事業を持続していくための検討ができるよう、委員の皆様には引き続き闊達な議論を続けていただきたい。

以 上